

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

### 事業名 鳥獣被害防止対策県活動事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111(内4172)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 50,000 千円 (前年度予算額： 50,000 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	50,000	50,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	50,000	50,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 県内における野生鳥獣による農作物被害額は2億円程度で高止まりしており、被害の約7割を占めるイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルに対し、効果的な対策の実行と検証が喫緊の課題である。
- 県が市町村からの要請があった場合に、被害防止に関する野生鳥獣の個体数調整捕獲を行い、農作物被害を軽減する必要がある。

### (2) 事業内容

#### <ニホンザル>

- 重点地区を設定し、地域住民等の協働によるサルを捕獲できる体制を整備するなど、効果的な捕獲活動を展開するため、専門家派遣による研修会開催や指導・助言を行うほか、鳥獣被害対策専門指導員による巡回・指導を行う。

#### <ニホンジカ>

- 県が市町村からの要請により被害防止に関する個体数調整のための広域捕獲を行う。

#### <カワウ>

##### ①カワウのGPSロガー装着による飛来動向調査

- 「岐阜県カワウ管理・被害対策指針」に基づくカワウ対策を推進するため、県内に生息するカワウにGPSロガーを装着し、飛来動向を調査する。

##### ②大規模コロニーでのカワウ捕獲

- 大規模なカワウ繁殖地において、シャープシューティング※体制による捕獲を行う。

※ 専門的・職能的捕獲技術者の従事を前提とする銃器による捕獲体制の総称。カワウでは、繁殖期の営巣地において、拡散を防ぎながら選択的に成鳥を精密狙撃する戦略的かつ科学的な高効率捕獲を実施する体制。

- ③カワウ河川飛来数調査
  - 県内河川におけるカワウの飛来数等を調査する。
- ④コロニーの生息動向調査
  - 県内に点在するコロニー等におけるカワウの生息状況等を調査する。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

国の事業要綱・要領に基づいて補助。県による負担分はなし。

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算 内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	2,808	講師謝礼
旅費	641	講師旅費、職員業務旅費
需用費 (消耗品費)	276	ニホンザル事務費、カワウ胃内容物調査消耗品
役務費	12	郵便代
使用料	12	会議室使用料
委託料	46,251	広域捕獲、捕獲体制の実証、カワウ生息に関する調査・捕獲
合計	50,000	

**決定額の考え方**

**4 参考事項**

**(1) 各種計画での位置づけ**

- ぎふ農業・農村基本計画
- 市町村被害防止計画
- 岐阜県カワウ管理・被害対策指針（令和4年度策定）

**(2) 国・他県の状況**

- 鳥獣被害防止特措法の改正において、県が必要な措置を講じることが明記。
- 令和6年度の国交付金については、都道府県による広域的な捕獲活動に対する支援を含め、国において前年比126%となる約121億円の概算要求がされている。
- 令和5年度と同様、県からの要望額どおりの配分がされる見込みは少ない。  
(令和5年度の配分額は要望額の79%)。

**(3) 事業主体及びその妥当性**

本県における野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、県が主導して対策を実施する必要があり、妥当である。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

<ニホンザル>

- 野生鳥獣への効果的な対策を実証し、被害集落へ実証した対策を普及させることにより、農作物被害の軽減を図る。

<ニホンジカ>

- 県が市町村からの要請により被害防止に関する個体数調整のための広域捕獲を実施し、農作物被害の軽減を図る。

<カワウ>

- 大規模コロニーでのシャープシューティングを実施するとともに、県内各地域での捕獲・追い払いにより、令和4年度時点の「夏季におけるカワウ生息羽数」を令和14年度までに半減させる。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
① ニホンザル実証対策の実施地区数	0	3	3	6	12	25%
② ニホンジカ捕獲数	20,310	19,871	15,000	15,000	15,000	132%

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>&lt;ニホンザル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニホンザルの生息状況把握及びその活用方法が習得できた。また、ドローンによる地域が中心となった追い払い体制が構築できた。</li> </ul> <p>&lt;カワウ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大規模コロニー2か所（鷺田橋下流・千本松原）でカワウの捕獲を実施することにより、県内のカワウ生息羽数を抑制できた。</li> <li>○ 大規模コロニー4か所（鷺田橋下流・長良大橋下流・徳山ダム・千本松原）における生息状況及び県内河川に飛来するカワウの飛来数を調査することにより、県内カワウの生息状況を把握し、岐阜県カワウ被害対策指針の改定に向けた情報を収集・整理できた。</li> </ul>
-------	--

令和3年度	<p>&lt;カワウ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大規模コロニー2か所（鷺田橋下流・千本松原）でカワウの捕獲を実施し、県内のカワウ生息羽数を抑制することができた。</li> <li>○ 大規模コロニー4か所（鷺田橋下流・徳山ダム・千本松原・中洞池）及びねぐら1か所における生息状況及び県内河川に飛来するカワウの飛来数を調査することにより、県内カワウの生息状況を把握し、岐阜県カワウ被害対策指針の改定に向けた情報を収集・整理できた。</li> </ul>
	<p>指標② 目標：<u>15,000頭</u> 実績：<u>19,946頭</u> 達成率：<u>132%</u></p>
令和4年度	<p>&lt;ニホンザル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点地区を3地区にサル対策の専門家を派遣し、域住民等の協働によるサルを捕獲できる体制が構築できた。</li> </ul> <p>&lt;ニホンジカ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村からの要請により、被害防止に関する個体数調整のための広域捕獲を実施した（1市3町を跨ぐ広域捕獲）。</li> </ul>
	<p>指標① 目標：<u>3地区</u> 実績：<u>3地区</u> 達成率：<u>100%</u>          指標② 目標：<u>15,000頭</u> 実績：<u>19,871頭</u> 達成率：<u>132%</u></p>

## 2 事業の評価と課題

### （事業の評価）

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断）          3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
<p>（評価） 2</p>	<p>&lt;ニホンザル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 野生鳥獣による農作物被害軽減に向け、新たな技術・体制を活用した鳥獣被害対策につながるために必要である。</li> </ul> <p>&lt;ニホンジカ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農林業や生活環境だけでなく、自然生態系への影響を低減させるため、ニホンジカの捕獲を進める必要性は高い。</li> </ul> <p>&lt;カワウ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カワウの分布域が拡大するとともに、漁業被害が深刻化しており、捕獲対策を実施するために必要である。</li> </ul>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）          3：期待以上の成果あり          2：期待どおりの成果あり          1：期待どおりの成果が得られていない          0：ほとんど成果が得られていない</p>	
<p>（評価） 2</p>	<p>&lt;ニホンザル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門家を派遣した地域においては、地域住民等の協働による捕獲体制が構築できた。</li> </ul> <p>&lt;ニホンジカ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農林業や生活環境だけでなく、自然生態系への影響を低減させるため、ニホンジカの捕獲を進める必要性は高い。</li> </ul> <p>&lt;カワウ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カワウは季節移動により県外から流入しているため、県内における分布域及び生息羽数の拡大を防止するため、対策の継続が必要。</li> </ul>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）          2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	

(評価) 2	<ニホンザル> ○ ニホンザルによる農作物被害の軽減に向け、専門家による指導・助言を実施することにより、効率的な支援となっている。 <ニホンジカ> ○ 捕獲業務を事業者へ委託することで効率化が図られる。
	<カワウ> ○ 県内最大級の大規模コロニー2か所（鷺田橋下流・千本松原）における捕獲（シャープシューティング）を、県自ら実施できないことから、過去に実施したことのある事業者へ委託することにより、効率的な実施方法となっている。

**(今後の課題)**

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ニホンザル> ○ 被害集落において、加害レベルが高い群れに対して、住民主体の捕獲体制の整備が必要である。 <ニホンジカ> ○ 県による広域捕獲の実施体制を構築し、市町村による許可捕獲等と合わせて農林業被害の軽減を図る必要がある。 <カワウ> ○ カワウ被害対策に携わる関係者（漁業協同組合・市町村及び県等）の連絡調整体制を整備し、対策の実施状況に関する情報共有が必要である。
--

**(次年度の方向性)**

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <ニホンザル> ○ 被害集落での効果的な技術を実証するとともに、効果が見込まれる技術について、現地での普及を図る。 <ニホンジカ> ○ ニホンジカの生息状況、被害状況を把握し、新たに県による捕獲が必要な地域を判断する。 <カワウ> ○ カワウの分布域及び生息羽数が拡大し、漁業被害が深刻化しているため、継続して対策を実行する。
--

**(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)**

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	